

平成29年第1回下仁田町議会定例会会議録第1号（7日）											
招集年月日		平成29年3月7日									
招集の場所		下 仁 田 町 議 会 議 場									
開閉会日時		開 会				平成29年 3月 7日午前10時00分		議 長		佐 藤 勇 二	
及 び 宣 言		閉 会				平成29年 3月 17日午前10時32分		議 長		佐 藤 勇 二	
応（不応）招議員		議席番号	氏 名		出席等の別	議席番号	氏 名		出席等の別		
及び出席並びに		1	小 須 田 肇		○	7	佐 藤 勇 二		○		
欠 席 議 員		2	岡 田 邦 敏		○	8	千 野 榮 治		○		
出席 1 2 名		3	永 井 正 之		○	9	島 崎 紘 一		○		
欠席 名		4	木 暮 弘 元		○	10	堀 口 博 志		○		
欠員 名		5	岩 崎 正 春		○	11	岡 田 武 二		○		
凡 例		6	佐 藤 博		○	12	佐 藤 公 夫		○		
○ 出席を示す											
△ 欠席を示す											
× 不応招示す											
会議録署名議員		12番	佐 藤 公 夫		1番	小 須 田 肇					
職務のため議場に出席したものの氏名		事 務 局 長		樋 口 令 子		書 記		小 井 土 直 也			
地方自治法 第121条に より説明のため出席した者の氏名		町 長		原 秀 男		保健環境課長		猪 野 馨			
		副 町 長		吉 弘 拓 生		農林商工課長		岡 野 弘 行			
		教 育 長		茂 木 学		観 光 課 長		林 通 典			
		総 務 課 長		神 戸 哲		建設ガス水道課長		神 戸 宏			
		地 域 創 生 課 長		永 井 邦 佳		教 育 課 長		大 河 原 順 次 郎			
		住 民 税 務 課 長		堀 口 玲 子							
		会 計 課 長		(住民税務課長兼務)							
健 康 課 長		荻 野 英 雄									

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 平成 2 9 年 3 月 7 日 午前 1 0 時 0 0 分

○議長 佐藤勇二 ただいまから、平成 2 9 年第 1 回下仁田町議会定例会を開会し、ただちに本日の会議を開きます。

○議長 佐藤勇二 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第 1 2 6 条の規定によって、1 2 番 佐藤公夫君と、1 番 小須田肇君を指名いたします。

○議長 佐藤勇二 続いて、日程第 2、会期の決定を議題といたします。
本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本議会の運営等について協議がされておりますので、その結果について報告を求めます。

議会運営委員長

(島崎紘一議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 島崎紘一 おはようございます。

議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。

去る 2 月 2 7 日、午後 2 時から 3 0 3 委員会室において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。

まず、会期につきましては、本日から 3 月 1 7 日までの 1 1 日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。

本日は、会議録署名議員の指名、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。その後、一般質問を議員 4 名が行います。

一般質問終了後から８日にかけては全員協議会を開催し、本定例会に提案されております第２号議案から第３２号議案の細部にわたる説明をいただきます。

９日は午前１０時から本会議を開き、報告第１号を報告の後、第２号議案から第１８号議案までの提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に、第１９号議案から第２５号議案までの補正予算及び第２６号議案から第３２号議案までの当初予算は一括上程をし、説明、質疑の後、全予算議案を予算決算特別委員会に付託し、陳情につきましては、所管の委員会に付託し審査をお願いすることに決しました。

１０日には予算決算特別委員会を開催していただきます。

１１日及び１２日は休日につき休会といたします。

１３日は１０日に予算決算特別委員会が終了しない場合、引き続き予算決算特別委員会を開催させていただき、終了後総務常任委員会を開催していただきます。

１４日、１５日及び１６日は委員会予備日といたします。

１７日最終日は本会議を開き、各委員長から委員会審査の報告を受けた後、第１９号議案から第３２号議案に対しての討論、採決、また陳情の採決を行い、全日程を終了する予定です。

以上、この会期日程等にご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう各位のご協力をお願い申し上げまして、委員長報告といたします。

よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 お諮りします。

本定例会の会期は議会運営委員長報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から３月１７日までの１１日間にしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長 佐藤勇二 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は本日から３月１７日までの１１日間と決定いたしました。

○議長 佐藤勇二 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
（原秀男町長 登壇）

○町長 原秀男 おはようございます。

平成２９年第１回議会定例会開会に当たり、ご指名をいただきましたので

一言ご挨拶申し上げます。

ことはまれに見る暖かい冬であり、このまま穏やかな春が訪れそうな雰囲気です。議員の皆様におかれましては、年度末何かとご多忙な中を定例会にご参集いただきまして、ありがとうございます。

本定例会には下仁田町固定資産評価審査委員会委員の選任についての人事案件に関する議案、条例改正案等の議案に加えて、平成28年度補正予算及び平成29年度当初予算、また下仁田町第5次総合計画の策定についてなど、第2号議案から第32号議案までの31議案をご提案申し上げます。これらの議案は後ほど担当課長からご説明を申し上げます。

案件が多くなりますが、よろしくご審議の上、ご議決、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

以上、平成29年第1回議会定例会開会に当たりましての挨拶といたします。本日は大変ご苦労さまでございます。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第3、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岡田邦敏君

(岡田邦敏議員 一般質問席へ)

○2番 岡田邦敏 議長の許可を得ましたので、議席番号2番、岡田邦敏、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

今回、住民サービスの一環として、また職員の資質の向上につながればと思い、質問したいと思います。

CSとESという言葉はふだん余り聞きなれないかと思いますが。100人以上従業員のいる企業や複数の店舗等では取り組んでいるところが多くなってきました。CSとは企業では顧客満足度と言ひ、ESとは従業員満足度と言っておりますが、行政では顧客満足度を住民満足度に、また従業員満足度を職員満足度に置きかえて、幾つか例を挙げてこの後質問させていただきます。

最初にCS、住民満足度について、住民の代表として幾つか例を挙げて質問をさせていただきます。

最初。職員は住民に対しまして、マニュアルどおりのサービスだけでなく住民の立場で、また同じ目線での対応が必要ではないでしょうか。公務員はやはりマニュアルどおりというのが一応基本ではありますが、そんな気持ちで今回はさせていただきます。例えば例を挙げますと、外付けタイプ、よく地区に立っているものですが、防災無線が少し聞きづらいという声を私も町

民の方から何人か聞いております。なお、屋内用は後でつけると有料になるという話も聞いています。これについてどうでしょうか。よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

防災無線の個別受信機につきましては、デジタル化に整備する際調査を行いまして、難聴地域を指定し配付してございます。また、屋外子局につきましては、聞こえづらい等の問い合わせがたまにございます。天候など、そのときの状況により聞こえづらい場合などがございます。聞き逃した場合には、82の4433、防災無線の電話対応サービスの利用や下仁田インフォメールの登録をお願いしているところでございます。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ありがとうございます。

やはり、年寄りが多くなってきておりますので、なかなか個人的にも聞きづらいという話も聞いております。よろしくお願いします。

次に、林道や町道の整備や修復がなかなか思うように進まない、いろいろでこぼこの道があったり、林道の整備がこれからいろいろ必要ではないかという声が聞こえていますが、それについてはどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

林道、町道の整備や修繕につきましては、緊急性または費用対効果を加味いたしまして、順次行っているところでございます。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 少ない予算ということで、いろいろ条件もあるかと思いますが、よろしくお願いします。

次に、余りないとは思いますが、自分も経験があります。電話のたらい回しには気をつけていただきたいという声、これもやはり住民の方からも、自分も経験していますし、そういったことが時たまあるように見受けられますが、それについてはどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

電話のたらい回しについてでございますが、そのようなことなるべく起こらないような対応の一つとして、各課へ直接つながる電話番号を設定してございます。広報にて周知したり、またチラシなどの問い合わせ先にもこの

直通電話の番号を記載するようにしております。しかしながら、従来どおりの代表番号に電話がかかってくる人が多い現状にありますので、再度わかりやすい方法で直通電話での利用をお願いするとともに、町民の方に不安感を与えないような注意をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ありがとうございます。

これも、高齢化が進んでおりますので、なかなか電話番号等間違ったりいろいろするかと思います。よろしくお願いします。

次に、きちんと挨拶ができる職員はどのぐらいいるのでしょうか。

例えば中には、私たちもそうなんですが、顔を合わせても挨拶ができない職員もいるように時々見受けられます。大多数の方はされているんですが、されない人がいると目立ちます。そんな中で、それと皆さんも誰しも経験が一度や二度はあるかと思いますが、小中学生の方から先に挨拶をされて、はっとしたような経験が皆さんあるかと思います。企業でも店舗でもそうですが、最初に対応した職員で役場の印象がよくも悪くもなると思っておりますので、その辺はどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 答えいたします。

挨拶は基本であると考えますので、意図的に挨拶を行わない職員がいるとは思っておりません。何らかの要因で挨拶ができない場合があるかもしれませんが、挨拶を受けなかった者にしてみれば理由は関係ありませんので、恥ずかしいことながら挨拶をきちんとするよう周知していきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ぜひ、よろしく周知徹底、よろしくお願いします。

次に、フレックスタイムの導入の検討ということで質問させていただきます。

先日、ある新聞に載っていましたが、県庁でもフレックスタイムの導入ということが検討されました。ただ、この検討では、この後自分も質問する職員満足度に該当すると思われることが検討され実施されるようです。今回、私の質問は住民満足度のほうの目線だと思います。例えば例を挙げますと、これからの時期日が長くなります。サマータイムだけでも、会社員だけでなく農業や職人さんやいろんな人、いろんな職業の方、住民の方が仕事

の行きや帰りに役場に寄って用事ができれば随分助かるのではないかと思います、フレックスタイムの検討をお願いしたいと思います。その件はどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

下仁田町の勤務時間につきましては、下仁田町職員の勤務時間、休暇等に関する規則により午前8時半から午後5時15分と定められているところでございます。また、町政報告会での町民の皆様からの意見によりまして、平成17年10月より毎週水曜日には住民窓口の延長を行っており、現在は午後7時までとなっております。これは勤務時間の変更ではなく、時間外勤務として手当の支給が発生しておりますが、なお、延長の窓口の利用状況でございますが、延長1回の利用件数といたしましては4件ほどの状況でございます。住民サービスの一環として開庁時間の拡大を行うことは、方法としては可能でございますが、現在の時間外勤務手当の支給及び利用人数から勘案しての費用対効果が求められ、なかなか難しい問題であると考えております。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ありがとうございます。

住民ができるだけ役場を利用しやすいという目線で今後検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、ES、職員の満足度について幾つか例を挙げて質問をさせていただきます。

病気や何らかの原因で長期に休むようなことはないでしょうか。また、そういった場合が発生した場合、そういう職員の対応はどうされておりますか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

平成26年6月25日に公布された労働安全衛生法の改正によりまして、ストレスチェックの実施が義務づけられております。このことから、昨年8月に心の健康づくり計画、職場復帰支援制度マニュアル、ストレスチェック制度に関する基本方針、ストレスチェック制度実施要項などを策定いたしまして、早期のストレスチェック診断や、もしストレスなどの理由で休職になった場合のフォロー体制を定めてございます。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ぜひそのフォローのほうをよろしくお願いしたいと思います。

それと、これは職員満足度のほうで重要かと思います。これから若い世代

も十分加味されるんですが、認められている介護休暇や育児休暇は思うようにとれておりますか。上司や周りの人の理解は得られておりますか。それについてお願いします。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

介護や育児等にかかわる休暇につきましては、国などに準じて整備されており、申請に対して付与されております。男性の育児休暇、休業などにつきましては、取得実績がない状況でございますが、理由といたしましては、長期に職場をあけたくないといったことや、通常の有給休暇取得の範囲で対応していること等が上げられるのではないかと考えております。下仁田町特定事業主行動計画においても、男性職員の家庭生活参加への推進について示されておりますので、今後も周知を図っていきたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ぜひ、男性の育休がとれるような職場、温かい職場にしていただければと思います。よろしくお願いします。

次に、各課との横のつながり、報告、連絡、相談についてお伺いしたいと思います。

縦や横の報連相は現行うまくいっておりますか。例えば、係の人が受けて、係長や課長につながれていなかったり、その上、課長まででとまって副町長や町長まで大事なことがつながれていなかったなんていうようなことがあれば困りますので、それについてお伺いしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

毎月または随時、課長等連絡会議や課内会議などを開催してございます。問題事項の共有を図っておりますが、今後も報連相の徹底を図っていきたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ぜひ、横のつながり、縦のつながりを密にいただき、みんながうまくできるようよろしくお願いします。

次に、福利厚生に不満はないかどうか、良好な環境で皆さんが仕事ができているかどうかをお聞きしたいと思います。

例えば、例に出しますと、昼休みに机を利用して食事をしたり、その場で休憩をしているような状態がないですか。中には、職種によってはこれは仕方がない職種もあるかと思いますが、そんなことをお伺いしたいと思います。

す。それと、昼食代の補助金とかも検討したほうがいいのではないかと思います。ですが、どうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

福利厚生につきましては難しい問題と考えます。職員としてみれば不満があることもあろうかと思いますが、その原資が税金ということでバランスが非常に難しいわけでございます。県内の状況などをよく精査いたしまして、対応できる内容であれば過度にならないよう対応していきたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 確かに、税金で給料等が支払われているからやりづらい部分があるかと思いますが、やはり良好な環境で仕事をして、町民にサービスをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

次に、部署または人によって時間外勤務の不公平はないかどうか。年間の時間外手当はどのくらいになりますか。差し支えなかったら教えてください。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 お答えいたします。

時間外勤務につきましては、通年で忙しい部署、期間で忙しい部署などとさまざまな状況がございますが、人事異動や新規事業への対応、土日できない事業などが時間外勤務の増加の要因であると思われま

す。実績でございますが、平成27年度の下仁田町全体での決算状況では3,300万円で、時間にいたしますと1万2,900時間、対象人数が89名でございました。月平均にしますと、一人当たり12時間で3万1,000円でございます。また、平成28年度につきましては、4月から1月まで10カ月間の実績で2,100万円、8,230時間、対象人数は92名で、月平均にいたしますと一人当たり9時間で2万3,000円となっております。今の状況では前年より減少してございます。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 やはり個人的に、うんとやる人とか全然やらない人とかがいると不公平さが生じる場合もあります。なるべくみんなで協力して、時間外を短縮できるようやっていただければなと思います。よろしくお願いします。

以上、具体的な質問をさせていただきましたが、住民満足度と職員満足度は車の両輪と同じで、どちらが欠けてもうまく前に進めないという法則があります。今後、住民の方に信頼される町として、また、職員も自分たちがス

スキルアップすることで住民の方から褒められたり当てにされたり、仕事にも張り合いが持てるようになると思います。今、町がテーマとして掲げておるまち・ひと・しごと創生総合戦略を進めていく上で、住民サービスを充実することが重要であり、同時に職員のスキルアップは大事なことだと思いますが、町長は、最後になりますかどうかお考えでしょうか。よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 私も町長になりましてから、朝礼、訓示のごとに、とにかく町民あつての職員であると、職員は町民の公僕であると常々申しております。

また、仕事においては必ず上司に報告・連絡・相談と、これはもう欠かせない、いろんな形で欠かせない。そういうことでそれを徹底しようとしております。また、今いろいろ、岡田議員からもいろんなご指摘がありましたが、必要であれば講師の方を呼んで研修ということもまた考えていくことなのかなと感じております。

いずれにしましても、とにかく町民に対しての立場をよく考えて進めましょうと、そういう姿勢でおります。よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 岡田邦敏君

○2番 岡田邦敏 ありがとうございます。

町長のほうで、研修の実施をお考えであれば、若干費用はかかるかと思いますが、外部講師を呼んでの研修は望ましいのではないかと私は思います。また、上から目線的な、一方的な研修ではなく、また、全職員が一度に研修するのは行政の場合は不可能ですので、できる部署から、またできることから職員自ら考え行動すれば、必ずよい結果が出て住民サービスにつながると思います。よろしくお願いします。

以上で私の一般質問は終了させていただきます。

ありがとうございます。

○議長 佐藤勇二 ここで暫時休憩をします。

休 憩 午前10時28分

再 開 午前10時36分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開いたします。

続いて一般質問を許します。島崎紘一君

(島崎紘一議員 一般質問席へ)

○9番 島崎紘一 議席番号9番、島崎紘一が議長の許可をいただきまして一般質問を行います。

まず、60分ということで時間は十分ありますので、質問は簡潔にいたしますが、答弁のほうを十分によろしくお願いしたいと思います。

まず、公約実現に向けてでありますけれども、さきの12月初議会において町長から所信表明をいただきました。そういう中で、一般質問の答弁もなかなか具体的なお答えというか、向こう4年間どうするのかという明快な答弁が聞かれなかった節もあります。そういう中で、あれから3カ月経過したわけですが、現在どのように考え、具体的に4年間に実現を果たすのか。当時の議事録を見ますと4項目上げられたわけです。そういう中で、項目ごとに具体的にこの1年に限らず、4年間どういう形でやっていくのかお答えをいただきたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 お答えいたします。

まず、政策的部分の方向性についてですが、私も主要な目標を4つ掲げました。すぐできることは平成29年度当初予算で対応しています。また、中長期的な視点で検討すべきことは、これからどのようなもの、課題をクリアすべきか。また、目標を実施していく上での財政面での負担が生じるか生じないか。また、生じるとすれば、どのように早期に実現できるかを考え、来年度で、29年度で実現できるものについては補正予算等で対応をさせてもらいたいと考えているところです。全体としては、そういう方向であります。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 次の予算についてはまた質問をいたしますけれども、町長は議員として4期13年間、一貫して誠実、公正を信条として歩んできた。この中で、政治信条を継続していくということでもありますけれども、議員時代の自らの発言、また提案されたことの実現のために、今度は町長としてこれからも取り組んでいくと、そういう理解でいいわけですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そのつもりであります。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 そこで質問をするわけですが、議員時代13年間、町長は一般質問を何回されましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 5回くらいだったと思いますが。

ちょっと正確ではありませんが。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 余り控えめに言わないでください。

私が調べた中ではたしか10回されている。

それで、記憶に新しいですけれども、昨年3月、この定例会で一般質問をされております。それについては行財政改革、人口が減ったのに職員が減らないのはどうしてでしょうかとか、あるいは課の設置、多いと思うかだとか、また、町外からの職員はどのくらいいるかとか、そういう質問を執行部に対してぶつけたわけですが、この件についてはまた後ほど機会があれば、町長の真意をお伺いしたいと思いますが、その中で、林業振興、木質バイオマスCLT関係、あるいは荒船風穴アクセス道路の問題とか、また厚生病院のちょうど改築時期の質問では、経営計画をどうするとか、あるいは小口融資の利子補助はないかとか、そういうことで、それと東第二団地、伊勢山下の分譲はどうかとか、非常に熱心に町政に問うてきたことを記憶しております。これを一つ一つ質問すればとても時間が足りないので、幾つか絞って議員時代の思いを町長としてどう取り組んでいくか、その辺のところをお伺いしたいと思います。

まず、一番多くやはり質問されたのが林業振興、たしか2回ぐらいされたと思うんですね。そういう中で、CLTについて、これは私よりも町長のほうが詳しいので、いちいち申し上げませんが、国会議員でも議員連盟139名の議員の皆さんがこのCLTを推進すると、そういうことで組織をつくっております。地元選出の国会議員でも、佐田玄一郎さん、小渕優子衆議院議員、また山本一太参議院議員の3名の方も名前を連ねております。そこで、町の産業、林業振興にどうこれを役立てようとしているのか。また、町はどこまで踏み込んでやっていくのか。その辺のところをまずお伺いしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 まず林業振興なんですけれども、CLTの話もなんですけれども、あとさっきのお話になりますけれども、まず現状この、今の下仁田町の山の森林の疲弊といいますか、林業の疲弊というか、そういうことを考えますと、まずは林業、山の木を、これをどうしていくか。まずそれが最初に考えられることだと思います。そういった中で、今後の直近として林政連絡会議の中でも検討をまたしていくところがございますけれども、とにかく切っても山の木がお金にならないと、非常に今、日本中なんですけれども、大変な状況になっていると思います。このことをまずは考えていく。これが一つの問題だと思っています。内容に関してはちょっと今言明を避けたいと思いますけ

れども。

それで、そのまた延長線上というか、大きな目標としてのCLT、目標という言い方はちょっとおかしいんですけども、CLTなんですけれども、私も3年前ぐらいからだと思いますけれども、日本に5年前ぐらいに入ってきたと思いますけれども、いろんなことで取り沙汰されてきたのが3年前くらいかなと。そういう状況の中で、非常にCLTを使って住宅でも、中層住宅あるいは中高層ビルに使えたらどんなにか木材の消費が進むかなと、そういう考えでございました。そんな意味もありまして、私も目標にCLTを一つの目標として掲げてきました。

その中で、非常にこの問題、国、県、また町全体で考えていかなければなかなか難しいと。うまくまとまりませんが、今現在一番感じていることが、とにかく国からだという感じがしております。

先日も、参議院会館で会議があったわけでございます。CLTで地方創生を実現する国会議員連盟というものが昨年できております。やっと立ち上がったというところなんですけれども、そんな中、出席理由はCLTを進める市長連合という立場で、来賓ということでその会議に出席しました。そんな中でも、その連盟は石破創生大臣が会長をしている会議であります。それを、様子を見まして、とにかく石破大臣も、この日本の山の疲弊を何とかしなければならぬ、治山治水を考えねば、その方法を十分考えていかなければならないんだという、非常に落ち着いた骨太な考え方だなと感じてきました。

考え方がよくても進まないものでありまして、その中では、国会議員の先生方の中には官僚にもっとCLTの建造物に対して補助金をどんどん出すと、もっともっと国が進めていかなければなかなか普及はしないんじゃないかと。現実には今、国がそんな状態であります。

しかし、これは全体で考えて、国自身も、また政府自民党も、国土強靱化計画という中で、これも3年前の計画でありますけれども、とにかく山の荒廃、これを何とかすることが災害を防ぐ、しっかりした国土をつくっていくんだという、そういうもとの発想でもあります。そういった意味で、非常に根っこがしっかりしている考え方だと思っております。ですから、今本当にまだ、どのぐらい、1年、2年で実現するのかなという感じはあります。もっと先になるかなという感じはしますが、国自身がまた政府自民党も含めてそういう考え方でいるわけですから、進み出せば早く進む可能性もあるかなと、そんなふうにCLTに関しては感じております。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 国の方向や県のそういった林業、荒廃した山をどうするかという、そういう世間一般論は理解できます。がしかし、現実的にこの地域に、またこの周辺にどう反映されるか。つまり、木材価格が今の価格ではとても林業者は山に入る気にはなれないし、入っても採算が合わない。これがまた、原木価格にこういった、この産業がどう反映されるのか。その辺が具体的に見えてこない、やはり住民としてなかなかC L Tを受け入れる機運が入ってこないと思うんですよね。そういう中で、この町として、近隣町村との地域間連携をどうするのか。あるいは森林組合として役割、町としての役割はどう位置づけて進めようとしているのか。その辺の目的達成までの道筋をぜひ聞かせてもらいたいと思うんですけれども。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今のお話ですけれども、もっと地に足をつけろということでしょうけれども、もともと、地に足はついておりますけれども、要は今、近隣ということも出ましたけれども、実は先日、上野村長とも話をしたんですけれども、私もなったばかりなので、なかなか話ができなかったんですけれども、とにかく西毛地域で、甘楽町、下仁田町、南牧村、また上野村、また多野の神流町、そういった首長でちょっと会議というか、研究会を立ち上げようと、今そういう方向を向いております。そんな中で、上野村長も大分そういうことで検討をしておるということで、力になっていただけるなとは思っています。

それと、もちろんもっと足元の中で、下仁田森林組合さんがあるわけでございます。それは、その方向は、林政連絡会議ということで、これからしっかりとよく考えて進めたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 いずれにしても、これからの新たな建材として非常に注目を浴びてきているわけです。そういう中で、下仁田町の取り組み方あるいは近隣の町村との地域連携によって、C L T問題は群馬では西毛地域をまずは筆頭に考えていくしかない、そういう空気になるような形でぜひとも町長、リーダーシップをとって進めていただきたいと、そんなふうに考えているわけです。今聞く限りでは、なかなか明快な手ごたえのある話が聞けなかったわけですが、それでは困りますので、ぜひともその辺はしっかりと取り組んでいく必要があるかなと、そんなふうに考えております。

次に、荒船風穴関連ですけれども、これについては今まで、町長も今のま

まではなかなか大変だから、付設道路、バイパス道路とかいろいろ関心の高いところで取り組んでいると思われます。そういう中で、かつてはふるさとセンターを風穴センターにとか、あるいは荒船風穴課の新設はどうかとか、非常にアイデアたっぷりの発言もされてきておるわけです。

ここに昨年7月に教育委員会から評価報告書があるわけですがけれども、その中でも風穴関連において、課題としては、現在の一般見学者駐車場は史跡から800メートルも離れており、その間は徒歩となるために、今後駐車場やルートも含めて検討する必要があると、そういう課題が記載されているわけです。これは、町長が議員時代に一般質問をした考えと全く一致しているなど、そういうふうに見ているわけですがけれども、いずれにしても今の状況だとなかなか一般の来訪者が大変な思いをします。そういう中で、道路改良、県道ですがけれども、道路改良あるいはバイパス計画、これについてどう取り組む姿勢があるのか、その辺のところをお聞かせ願いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 誰が答えますか。町長

○町長 原秀男 ちょっと話が通告書になくて、それてしまっているんですがけれども。それはそれとしましてお答えいたします。

確かに、あそこの800メートル区間、神津牧場から降りてきて大きな駐車場があって、そこから風穴まで800メートルを歩くと。しかもかなり標高差があります。それは本当に、そしてあの風穴の場所は、夏が牧場も絡めてですがけれども、夏はやはり売場な場所というか、冬場はもう閉鎖です。ですから、真夏にかけての来訪者がかなり、もちろん5月も暑いんですがけれども、5月、6月、7月、8月と暑い時期の来訪者が多い中で、あの800メートル区間を歩いてもらうと。しかも、標高差がどのくらいかちょっとわからないですがけれども、かなりあります。そういうところで、来るときは下りだから幾らかいいですがけれども、帰りが大変な上り坂で距離がある。それはもう最初から私も常々感じておりまして、議員時代にも何とかその方策はないものかと、金井前町長にも話してまいりました。

そんな中で、今、私がこの場に立っておるわけですがけれども、やはり事実は事実でありますし、また来訪者に対して気持ちよく来て、気持ちよく帰ってもらう。また行ってみようかと、そういう気持ちは多大に持っております。そういった中で、これはまた財政的な問題が大きな問題としてあるんですがけれども、やはり何か乗り物的なもの、それは施設としてあったほうがいいかなと。ただ、そういうものを何か検討しようとする、あそこは文化庁のバッファゾーンであるといつもはねられていたんですがけれども、

それはそれとして、また文化庁とも相談なり検討なりということにして、また財政事情等も含めてそれは考えていきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 冒頭も申し上げましたけれども、公約実現に向けてということなので、13年間の議員活動の中でも、やはり先ほど念を押しましたけれども、実現のために町長としても取り組んでいくかという質問で、そのとおりですというから、関連で一般質問、今までの経過を調べた結果、幾つかお聞きしているわけで。その辺のところは誤解のないようによろしくお願いいたしますと思います。

次に、もう一点だけ。

東第二団地をどうするのか。先ほど、先月28日に開発公社に評議委員会の意見が出ました。そういう中で、当時平成9年、10年にかけて1,866坪、あそこは8,095万円で買収して、約坪4万円ついているわけですが、市中銀行からの借り入れで金利がかさんで9,543万。そういうことで、土地開発公社から安い金利で融通してもらっていると。しかしながら、平成30年3月には債務負担行為が切れるわけですよ、来年3月で。そうすると、やはりここが一つの節目で、町長が一般質問をしていらしたとおり、あそこをどうするかと。やはりこの任期中に何とかめどをつけて、あれだけの1億近い資産が眠っているわけですから、その辺のところをこの任期中にどう取り組む姿勢でいるか、ぜひその辺をお聞かせ願いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 この問題は、やはり土地開発公社があります。ですから、今ここで私が説明するのはどうかと思います。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 土地開発公社の下仁田支所の支所長ですから。であるからして、やはり議員時代そういった関連で、あの土地をどうするか、伊勢山下も造成した直後でしたから、議員時代に一般質問したと思いますけれども、やはり、議員は提案をしてもなかなか実現しないと住民の代弁者でありますけれども、言いつ放しのような形になるわけですが、やはり、それだけの執行権と人事権も含めて、権限を持った立場にある町長ですので、13年間の議員のときの思いをぜひとも実現するような形で取り組んでいけたら、これは素晴らしい町長になる。これは開発公社、立場が違うわでなくて同一人物であるから、明快な答弁があってしかるべきだと思いますが、この1年というこ

とでなく、いわゆる債務負担行為が終了するときまでには、かなり具体的なことを考えて、やはり議会に提案してもらえたらと思います。この辺の意気込みについてどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 考えはあります。ありますが、やはり土地開発公社がありますので、十分考えておるということで返事をさせていただきます。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 いずれにしても、任期4年、初年度は公約実現のための種まきの時期だと思うんですね。この種まきをしておかないと、2年、3年目で生えてこない、成長しないと。4年目はそれを収穫する。すなわち有権者がどう判断するかという、そういうことなので、長いようで短いと思うので、ぜひとも初年度具体的な形で、検討も結構ですけれども、議員に示していただきたいと、そんなふうに考えております。

それでは、次の29年度予算事業についてお尋ねいたします。

まず、予算概要で51億8,400万と、昨年の4.8%減ということで、全協において予算概要説明がありました。群馬県においても7,245億円、2月20日の県議会における知事の説明だと、群馬の未来創生予算と位置づけて提案をされました。そういう中で、予算編成に当たり、今年度特に留意した点、あるいはここだという町民にアピールすべき点はどこか。その辺のところを踏まえて、町長の方針、考えをお聞きいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 予算編成に当たりましては、厳しい財政状況が続く中、予算は政策の具体化であることを念頭に、本町の置かれた財政状況を正しく理解し、また、最大の危機感を持ちながら、下仁田町まち・ひと・しごと創生総合戦略等における財政体系に基づき、真に本町の発展につながる施策事業を中心に、効率的な予算配分を行いました。事業の選択や見直しを徹底し、持続可能な町政運営に向け、効率的な経費支出に努め、町民中心のまちづくりを目指して取り組むということです。

29年度予算の重点項目といたしましては、道の駅しもにた再整備事業を初め、新規事業としては少子高齢化対策では無痛分娩助成、また集落高齢者等タクシー利用券の拡充、また、定住促進対策では、ねぎとこんにゃく下仁田奨学金事業、またお試しサテライトオフィスモデル事業、新卒者雇用促進事業、産業振興対策では、産地パワーアップ事業、中小企業新規取引開拓支援事業、産業支援事業、商店街活性化支援事業、創業促進事業などを継続事

業とあわせ推進していきたいと考えております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 予算概要から見ますと、主財源と言われる町税が8億3,000万余り。全体の18.1%。しかしながら、人件費9億8,000万円にははるかに足りない状況であります。地方交付税を入れても61%が町税、地方交付税であります。27年度の決算経常収支を見ても、88.8%と非常に厳しい町政運営でありますけれども、予算内容について、これから予算審議があるので、細かい点については特別委員会に付託されますので割愛いたしますけれども、とにかく政策を数字にしたのが予算であります。そういう中で、今年度町長公約として載せていた中で、具体的にどういうことが反映されておりますか。その辺のところをお伺いいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 新年度予算では、高齢者対策のタクシー券の拡充を行っております。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 細かい点については、また予算決算特別委員会で質疑をいたしますとして、次の地方創生交付金についてお伺いをいたします。

これについては、国も県も市町村も人口減少対策、危機感を持って取り組んでいるわけですが、2015年から19年にかけて、政策目標あるいは施策を策定するということになっております。いずれにしても、2060年に国は1億人を切らない中長期展望を提示をして進んできておるわけです。

そういう中で、26年度、27年度、28年度、それぞれ地方創生交付金が各市町村、県に配付されたわけですが、26年度補正については地方創生先行型交付金ということで、全国37団体がこれについて活用しているわけです。県、市町村版のCCPC事業導入ということでもありますけれども、それについて、下仁田町はどういう対応をしてきたか。どういう、また手を挙げたか挙げなかったか、それに適応する事業の決定があったかどうか。その辺のところをまずもってお伺いいたします。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 お答えします。

地方創生の交付金についてでございますが、これまでの推進、地方創生に係る交付金事業につきましては、27年度までは手を挙げて、それぞれ幾つかの事業を採択されております。また、新型交付金ということで、今年度か

ら新たに用立てられたものにつきましては、目下のところ事業の該当はございません。

また、過日ありました……

（「今は２６年度のことを聞いているわけだから、その次はまた尋ねるから」の声あり）

○議長 佐藤勇二 島崎絃一君

○９番 島崎絃一 ２６年度については、基礎交付という１，４００億。また、上乘せ分として３００億。合計１，７００億が先行型交付金として執行されているわけですから、それについて本町はどういう対応をされたかと、それを聞いているわけですから。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 休憩をお願いしますか。資料が手元にないので。

○議長 佐藤勇二 暫時休憩します。

休 憩 午前１１時１２分

再 開 午前１１時１４分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開します。地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 大変すいませんでした。

平成２６年度分の交付金事業につきましては、地域消費喚起生活支援事業ということで、プレミアム商品券の発行事業を行っております。

また、先行型事業といたしまして、同じく総合戦略の策定業務、それから町内の空き家調査、それから町のＰＲ事業、それから町の各拠点にＷｉ－Ｆｉの整備を行った事業、それから観光の振興事業といたしまして、パンフレットやポスター、それから教育旅行用のパンフレット等を作成しております。それから、ジオパークＰＲ事業ということで、ジオパークの紹介のＶＴＲ、それから自然史館に置く宮室の逆転層のレプリカ、これを作成しております。

また、育児の支援事業といたしまして、かるがも広場の整備、またそこでの子育て教室のイベントの開催等の費用に支援事業を使っております。

以上でございます。

○議長 佐藤勇二 島崎絃一君

○９番 島崎絃一 ２７年度については地方創生加速化交付金で、ちょうど昨年３月定例会において補正予算で可決されて、まだ記憶に新しいところであります。総額で６，６２３万ですか。それで、ほとんどが繰越明許で本年度になっていると思います。

そこで、２８年度地方創生推進交付金についてですけれども、これについ

ては第1回、第2回目、それぞれ交付されておりますけれども、第1回目については群馬県12事業で市町村が藤岡、片品村ほか6町村10事業、これ第2回目ですね。第1回目については、県が3件で市町村が安中市、上野村ほか6町村、それぞれ交付されているわけですが、この推進交付金について、下仁田町はどう対応されたか。その辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 推進交付金事業につきましては、下仁田町といたしまして、ICTを利用いたしましたプログラミング教育、それから地域間交流による仕事創出事業ということで計画を作成いたしまして、国のほうに申請をいたしましたが採択されなかったという経緯がございます。

○議長 佐藤勇二 島崎絃一君

○9番 島崎絃一 採択されなかった主たる原因は、どういうことですか。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 採択されなかった理由につきましては、国のほうから特段それについて述べられていることはないのでありまして、お答えすることができないという状況であります。

○議長 佐藤勇二 島崎絃一君

○9番 島崎絃一 第1回目、第2回目、いずれにしても第1回目が745事業、また、第2回目が456事業と、相当全国で対象になっているわけですので、申請したらなるべく漏れないような形でぜひとも今後は取り組んでいただきたいと、そんなふうに考えております。

そこで次の、同じく28年度の補正で、拠点整備交付金があったわけですが、これについては先般、2月10日の上毛新聞で発表され、群馬県でも13事業、6市町村7事業が発表されました。そういう中で、南牧、神流町、あわせて南牧は2事業で約6,000万、神流町が公民館施設整備事業で6,500万と、そういうふうに発表されました。その中で、全国的にどういうものが多いかといういろいろ調べたんですけれども、非常に地域創生について町おこし、あるいは古民家整備、あるいは入込客の増加等々が非常に多かったわけです。全国的にも897事業、そのうち長野県が75事業、全国一申請を出していると。その中で幾つかご紹介しますと、隣の小諸市においては北国街道小諸宿再生事業、あるいは江戸町屋の活性による城下町体験事業等々。それと、中には道の駅、青木村ですが、高機能拠点化事業等々あるわけです。1町村で4事業も申請を受けて認可になっている。そう

いう中で、信濃町などは野尻湖ナウマンゾウ博物館整備事業と。下仁田でもジオパークあるいは荒船風穴等々が、そういった事業にふさわしいようなことも考えられます。参考までに、九州うきは市は5事業認可になっております。

こういう中で、下仁田町はこの地域拠点整備事業に名乗りを上げたか、あるいは上げなかったか。その辺のところも含めて、この全国の事業内容を見ると、本町においても例えば旧黒澤家の住宅が広報で賃貸の申し込み公募がありましたけれども、あのまま貸すのでは何としても借り手も大変困るなど。そういう中で、やはり例えば旧黒澤家の住宅整備、あるいは多世代交流拠点として馬山生活改善センター等々の整備、または地域特産品研究拠点としてのねぎやこんにゃく、シイタケにかかわるような施設、それと町なか交流人口受け入れ整備、考えれば次から次に下仁田町に適應されるような事業が全国で展開されているわけです。

そういう中で、2月10日に発表された6町村7事業についてのみで、下仁田町はどう対応されているか。また、どういう努力をされていたか、あるいはしなかったか。その辺のところをお伺いをいたします。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 永井邦佳 この拠点整備事業につきましては、町といたしましては町の所有する旧黒澤商店家屋、それから旧農業改良普及所、合併協議会を置いたところでございますが、その2つの建物を対象に、これらの利活用についての検討を行いまして、同じく同時期に、ICT教育ということで、教育委員会のほうで進めてまいりますので、このICT教育の拠点、それからそれを利活用いたしました創業、それから企業や個人向けのチャレンジショップ、こういったものを施設として設け、また、その周辺にスポット公園的なものを整備してはどうかということで、庁内で企画をいたしまして、申請の概要を出したわけでございます。

この交付金については、10月下旬に事前の相談会というものが内閣府の地方創生事務局でございまして、こちらに書類を持参いたしまして概要を説明してきた経緯がございます。そこで国の担当者と協議をいろいろ行った結果ですが、建物が少し距離が離れているですとか、拠点整備のための十分な施設の広さがないであるとか、いろいろ問題を指摘されました。これにつきまして、また国のほうの意見を持って帰ってきまして、町のほうでいろいろ検討を重ねましたけれども、国の言っている条件を全て満たしていくということになりますと、本来町の考えていた計画そのものが少しかけ離れてしま

うということもございます。

また、この交付金につきましては、土地の買収等につきましては交付金の対象とならないということ。それからあくまでも、この交付金は2分の1までの交付であるということを勘案し、財政の負担等を考えて、今回はこの申請を断念させていただいたという経緯がございます。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 町の方針、計画にそぐわない。そぐわないような計画を立てると、これはずっとこのまま交付金対象から外れるということですよ。やはりその辺、まち・ひと・しごとの総合計画が果たして国の思うようなことに沿っているかどうか、その辺を検討する必要があるんじゃないでしょうか。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○9番 島崎紘一 ちょっと待って。

全て町長に質問をしているわけだから、課長さんが確かに専門分野で答弁したいのはわかるけれども、町長がしかるべき担当課長に説明しますという指名があつてしかるべきだと思います。この通告書は全て町長にしているわけだから。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 しっかりと考えていきたいと思っています。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 昨年は10分の10、だんだん国の方針も今回は事業内容について2分の1と。しかしながら、1つ受かったから1つやればそれで済むのではなくて、やっぱり地域創生につなげると、人口減少に歯どめをかけると、そういう継続的な事業が必要なわけですし、単発的に認可になったからそれだけやれば済むという問題ではないわけですし、その辺のところは十分に慎重な対応と協議を重ねて国に申請をしていく必要があると、私はそう思います。

それで、900億のうち第2弾として343億6,000万が第2回の応募に入っているわけです。これは、3月中旬までに要するに締め切りとして、4月下旬に交付決定すると、そういうことでありますけれども、これについて、町が今、どういうふうな取り組みをしているか。その辺のところをお伺いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それに関しては、副町長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 副町長

○副町長 吉弘拓生 ご質問にお答えいたします。

先ほど、島崎議員からございましたとおり、現在３１３億円ということで拠点整備交付金の募集が始まっております。３月２３日をめどに提出ということになっておりますけれども、こちらにつきましては、現在道の駅のコミュニティ施設等で活用できないか等を視野に、鋭意資料のほうを作成をいたしております。情報のほうは、議員がおっしゃるとおり早く入ってくるんですけれども、そのための日ごろのアイドリングがしっかりできていないと、おっしゃられているとお取りこぼしがたくさん出てきますので、その点につきましては、私も気を引き締めてしっかりとやっていくというところで答弁とさせていただきます。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○９番 島崎紘一 非常に地方交付金については忙しい日程で、担当の係、課長さんも大変だと思います。今、副町長が言ったように、ふだんのアイドリングが必要だと。やはり町なかを見て、町全体を見て、この点についてはどうしてもクリアするんだと、地方創生の枠の中に入れるんだと、日頃のそういったやはり関心と協議が必要だと思うし、これには直接の担当課のみならず、商工観光あるいは教育分野全ての庁内の横の連絡をとって、お互いに知恵を集約して進めるべきであるかと、そんなふうに考えております。

いずれにしても、知恵があっても、今知恵を使い切らないんじゃないかと。ぜひともその辺のところは若手の職員も含めて、町長を中心に地方交付事業の獲得、その予算の獲得に邁進をしていただけたらと、そんなふうに考えております。

次に、時間も大分迫ってきたわけですが、町史編さんについてお尋ねをいたします。

今ある町史については、昭和４６年１１月に刊行されたわけです。当時の町長が今井七五三次氏、また議長がかつての町長の神戸半三氏でありました。そういう中で、これは昭和二十七、八年ごろ、町当局で町史編さんの計画はあったそうです。しかしながら、それが中断されたまま来て、当時の町長が当時の教育長に依頼をし、承諾され、編さんに着手したと。そういうことが当時の町史の中村元県会議員の祝辞の中に記されておりました。

そういう中で、最近においては平成２０年に２６４万円の予算をつけて町史編さん、補正８３万合わせて取り組んだ経緯がございます。さらに、平成２１年には３８３万ほど予算計上をしましたけれども、途中でそれは３月にマイナス補正をして、不用額として出されたわけです。

そういった、自分なりの経緯を調べてみたわけですが、なぜそうなったか。具体化され発刊に至らなかったのはなぜか。その辺のところをお尋ねをしたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

通告書が町長ですから、町長、お答えください。

町長

○町長 原秀男 教育課長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 それでは、お答えいたします。

今、島崎議員さんが言われたとおりの経過でまいりました。

私どもが県内の編さん委員を受けていただける方の調整、打診に当たりました。結果、候補者の高齢化と世界遺産登録に向けた活動が本格化した時期でもございました。候補者の方々から、編さん委員を受けていただくことができなかったこと、編さん委員会を立ち上げることができず、先ほどのとおり3月の補正で減額をさせていただいた経緯がございます。

なお、その交渉の中で、編さん委員の候補者の方から、資料の残存状況、資料収集の現在の状況等も編さん委員を受託するための基準になるという意見をいただきました。そのことから、その後につきましては、統合された小中学校に残る資料の収集、役場庁舎内、西牧分館内にあった古い公文書等の収集、整理に当たるとともに、庁内に残る古文書等の散逸を防ぐための活動を現在まで進めてまいりました。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 当時、最初の町史に編さんされて、協力あるいは情報提供された人は100名を超えているわけです。そういう中で、今現在元気で生存されている方はわずか数名であります。やはり、今この時期に町史、当時の町史編さんから半世紀たっているわけですので、記憶の新しい人たちが健在のうちにぜひとも新しい町史編さんに取り組む必要があろうかと、そんなふうに考えております。

今までの町史を見ると、やはり専門家の先生には適切でない表現があったり、あるいは記述的にもうちょっと修正を加えたほうが良いと、そういうご意見もございます。まして、人口減少問題から統合小中学校を含めて、教育関係の大きな変化がありますし、また、世界遺産荒船風穴、あるいは自然学校も二十年を迎えているわけです。

この時期に、やはり後世に残るような一つの立派な単行本として残してお

く必要があるので、ぜひとも町史編さんについては今やらなければ、そういうことで、時期を逃すとまたそれが風化してなかなかできないと。今いる課長さん、係長さん、このスタッフでどうしてもその辺のところは組織を立ち上げて、しっかりとした、どこに出しても恥ずかしくないような町史編さんが必要かなと。当然発行されれば、県の図書館あるいは各市町村の学校、小中学校、公民館等に、図書室に陳列されるのは確かであります。そういう中で、ぜひとも町史編さんを前向きに取り組んでしかるべき時期には、やはり下仁田町の歴史を後世に伝えと、これは我々世代の大きな責任だろうと思います。

その辺で、町長、いかにその辺の決意のほどをお伺いしておきたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 現在の町史の刊行年が昭和46年であります。刊行後、半世紀近く記録がまとめられていないと。この間、上信越自動車道、これに伴う発掘調査、また荒船風穴の世界遺産登録、このような大きな変化もありました。そういった意味で、本当に新しい町史の刊行の必要性については十分認識しております。

よろしくご協力のほどお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 町長の前向きな心構えというか聞いて、元気が出てきました。

具体的にいつ、どう立ち上げるか。その辺のところを、本年度か来年度か、その辺のところをぜひよろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 現在、資料の所在状況の把握等、まずは保存を第一に來ましたから、これから行政組織内での編さん体制の位置づけ、また編さん委員さんの選任のめどがついた段階で取り組みを行っていきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 島崎紘一君

○9番 島崎紘一 やっぱり、前回頓挫したというとおかしいんですけども、やはり、組織がうまくできないと列車は走れないと、どうもその辺に前回挫折した原因があるように思われますので、ぜひともその辺のところはしっかりとしたスタートが肝心になりますので、担当課長、また教育長を中心に進めて、落ち度のないような形でスタートを切っていただきたいと、そんなふうに考えております。

いずれにしても、10年は長過ぎますけれども、4年、5年、そのくらい

のスペンがないとできない作業だと思いますので、ぜひとも室を設けるぐらいの意気込みでぜひやっていただきたいと思います。

提案型の質問になってしまいましたけれども、大分時間も過ぎました。

これで私の一般質問は終了といたします。大変ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 ここで暫時休憩とします。

休 憩 午前 1 1 時 3 9 分

再 開 午後 1 時 0 0 分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開をします。

午前に引き続き、一般質問をします。

通告書に従い、質問を許します。永井正之君

(永井正之議員 一般質問席へ)

○3番 永井正之 議席番号3番、永井正之、議長のお許しをいただきましたので、これより一般質問をさせていただきます。

林業振興ということでお願いします。

この間の2月に地元の山に登ってきました。見渡す限り山が真っ黒です。みんな杉山です。一昔前ならばちょっと見ると、はげた山、皆伐したところがありました。今は、皆伐というんじゃなくて主伐と言います。そういうことで、今下仁田町ではどれぐらいの伐採が行われていますか。

○議長 佐藤勇二 農林課長

○農林商工課長 岡野弘行 お答えいたします。

ここ3年ほどの下仁田町における森林組合の実績数字になります。搬出材積については平成25年度で約6,400立米。それから平成26年度が約5,700立米。それから平成27年度については約7,500立米ほどです。さらに排出面積につきましては、平成25年度約63ヘクタール、平成26年度が約64ヘクタール、平成27年度については約73ヘクタールでございます。

以上でございます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 そのうち、主伐はどのぐらいですか。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 お答えいたします。

主伐については、平成25年度が約10ヘクタール、26年度が約3ヘクタール、27年度については約11ヘクタールほどになります。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 下仁田町の面積は188平方キロ。それに対して、山林率掛ける植えつけ面積掛ける伐期を見ますと、まだ二、三千ヘクタールはそういう山がありますよ。それなのに、10とか10ヘクタール、1年。どうして進まないのでしょうか。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 お答えいたします。

いろいろな要因があるとは思っております。

まず、木材価格が低迷しており安い。これが一番かと思えます。それからあと、山からの搬出経費、これについて、これがかなり高いということで、これが第2の要因かと考えます。さらに、伐採後には、これは特に保安林の場合はそうなのでございますけれども、その後に植林をしなければならないということがありまして、その後の保育管理、これに経費がかなり必要となるとということが考えられております。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 今、保安林に対しては植林の義務があるということですから、普通林にはないわけです。そのままでいいですね。それで、最近の木材価格等搬出経費を教えてください。平均のものでいいですから。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 これも、地域によってあるいは場所によって、かなり金額は違っておるんですけれども、これはあくまで平均した価格ということでございますが、平成28年度、今年度、これで杉材が1立米当たり8,000円ぐらいではないかということでございます。それからあと、素材の搬出経費についてでございますけれども、箇所やそのときどきで違うようだけれども、これも平均的なもので平成28年度で杉材が、これも1立米当たり約8,000円程度であるということでございます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 ということは、所有者にはお金が入らないということですね。

ちなみに、自由化になりましたその後の昭和50年代を見ますと、1立米当たり2万円から約3万円、2万8,000円ぐらいです。その後どんどん、経費は上がっても木材価格はどんどん下がって、今こうなったわけだと思います。それで、今伐期を迎えた木材が、先ほども言ったようにたくさんあります。話によると、大径木というんですか、もう34センチ加味、それ以上は今の住宅利用ということで売れないそうです。人気がないそうです。どうするんですかと言ったら、最後チップだねなんて言われました。その反面、

小径木というか、柱材などが足りない、不足ぎみというようなことでございます。

そんな中で、主伐、間伐はいろいろありますけれども、補助事業、支援事業とか何かありますか。主伐、間伐に対しての。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 答えいたします。

現在、間伐につきましては、これは国の１００％補助ということで、町を経由して、これはトンネル補助になりますが、美しい森づくり基盤整備事業交付金というのがございます。平成２８年度の実績が現在もう出ておるんですけれども、約３７ヘクタール。この量を間伐しております。それからあと、町を通さずに県から森林組合に直接補助をするという制度で、これは県単の緊急間伐事業の補助金というものがございます。間伐については、これらを組み合わせて現在実施しているというところでございますが、町単独での間伐補助というものはございません。

それから、主伐についてでございますけれども、町を通して県や国の補助事業、支援制度、こういうものは現在はありません。それからあと、国、県、これから森林組合への直接の補助制度ということについてもないということでございます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○３番 永井正之 間伐に対しては、そこそこの補助がありますけれども、主伐に対しては国、県、町も何もないそうです。

そこで、町長にお聞きしたいんですが、何か町独自のそういう支援事業、補助事業というものを考えておりますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 答えいたします。

先ほど、島崎議員さんの質問の中でもちょっと触れたわけですが、先ほどはＣＬＴの話でしたけれども、またその前に、今の段階で考えられることもあるのではないかとということで、とにかく切ってもなかなか単価が低い、そういった中で主伐。間伐にはいろんな支援があると。そういう意味で、主伐に対してとにかく切った方に森林所有者に対して、立米当たり何らかの応援をしていくと、そういう考えでは今あります。これも詳しいことはまた後々に林政連絡会議等で研究しながら、とにかくその方法を考えていきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 いいほうに取っていいですか。いい方というか、もう考えており、詳細は林政会議にかけるということなので、町長自身、決定ということで受けとめていいでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 その方向で考えております。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 やはり、今の山林があるのは先輩たちがおおごととして植えたものでございます。やはり、人生最後には少しでもいい夢を見させてもらいたいと思います。

次に、作業道の関係ですけれども、作業道は主伐、間伐いろいろするのためにあけたわけなんですけど、ざっと考えてみますと、間伐した1回だけしか使っていません。使っていませんというか、後がなければ1回しか使わないわけでございます。何とか、何回も使わせるためには、やっぱりさっき言った主伐、主伐して植えつけ管理、それからそういうことに行けばいろいろに循環産業としていいのではないかと思います。

そうした中で、植林に対しては何かいい制度、補助とかありますか。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 お答えいたします。

国・県から町を通して植林や保育、こういうものに対しての補助金というものはございません。県から森林組合に直接補助する制度があるということでございます。それで、森林環境保全直接支援事業補助金という、こういう制度がありまして、国が10分の3、県が10分の1の割合で補助するというものでございます。伐採後の植林や植栽及び植林後の下刈り、保育間伐等に補助するというものでございます。

また、この森林環境保全直接支援事業での、これは植栽部分に限りまして、県が単独で上乗せ補助を行っているというものがございます。これは、造林推進対策補助金という制度で、県の単独補助ということになっており、さらに針葉樹で10分の1.2、広葉樹で10分の3、これを上乗せで補助するというものでございます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 10分の10じゃないですね。足しても10分の幾つか。10分の10じゃないですね。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 全部で10分の10にはならないですが、残りは森林

組合さんと山の所有者さんというような形になると思います。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 町長、10分の残りの分を何とかまた、お考え願えればと思います。

それというのも、先ほど言いましたが、木を切った後に構わんでおくというか植栽義務、普通林は植栽義務がありません。だから、構わんでおく人がこれからどんどんふえてくるのかなと思います。そうすれば、何か本当に雑山となるのか、本当にカスの木の山になっちゃう可能性が出てくると思うので、せめて植林からその後の管理に関して、10分の10になるように町も幾らか面倒を見ていただけないでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 もちろん、その部分も考えてはおりますが、また一部に受益者負担ということも必要だと思います。全面的には植林も含めた中で考えていきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 もう待ってられない段階ですので、早急にその考えを実行に移してもらいたいと思います。

次に、ふるさと応援基金の関係ですが、きょう見ても、もう花粉がすごいです、山には。この花粉を何とかアピールできないかということで……

(「アピールするんですか」の声あり)

○3番 永井正之 いやいや、花粉対策ということで。

だから、こういうことで花粉対策をしています。下仁田町はこういうことで花粉対策をしていますということをうたった、何か例えば、環境対策、環境保全事業というものがあります。その中に、そういうものでひとつ、そういう考えはどうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 森林環境整備につきましては、全国の多くの自治体の活用メニュー、ふるさと納税の活用メニューなんですが、それには主間伐、再造林、または地球温暖化の防止や森林の持つ災害防止等の公益的機能の回復のための事業に充てられているのがほとんどでございます。

花粉症対策につきましては、返礼品でドリンク等の飲み物でお返しすると、そういうものがございますが、メニューの中ではちょっと見られないものでございます。公益的機能の回復のため、伐倒除去及び花粉症対策に対する無花粉の苗木があるようですが、その植栽への支援などを行っているところも

林野庁のほうであると伺っております。苗木の植栽につきましては、これに充当することは可能と思われます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 全国ではそういう事例はありますか。全国のどこかには。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 苗木のことですか。

○3番 永井正之 花粉対策をふるさと納税の……。

○総務課長 神戸哲 それは、調べたところ、花粉症対策でふるさと納税のものを
使って、充当してメニューの中で取り入れるというところは、ちょっとまだ
見当たりません。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 やはり、主伐、間伐をして、その後には花粉の少ない品種の植
林をするとか、いろいろ花粉対策をしていますということですが、やはり下仁田ねぎには到底勝てそうもないんですが、今、本来の寄附行為とい
うものがどこかちょっとばかりずれてきちゃって、返礼品のほうばかりに行
っちゃっているわけですね。こういうことで、何かそういうことで、それに
飛びつく人はいないやね。何とかそういうことで、できれば一応考えてもら
いたいと思います。

次に、群馬の県民事業についてですが、5年間、26年から30年までで
一応5年間で終わっちゃうそうですが、その後の話は何かありますか。

○議長 佐藤勇二 農林商工課長

○農林商工課長 岡野弘行 答えいたします。

ぐんま緑の県民税は平成26年度から導入されております。期間は5年間
ということでしたので、平成30年度の末をもちまして終了という
ことになっておりますが、これを原資にしたぐんま緑の県民基金、こういう
ものに積み立てられた上で森林環境を保全整備するぐんま緑の県民基金事業
として、うちの下仁田町でも生活道路沿いの森林伐採や植栽管理等の県補助
金として活用されております。

平成31年度以降の事業継続については現在のところ不透明でありまして、
はっきりとしてはおりませんが、地域住民の皆さんの関心が高く、要望も多
数上げられております。なるべく継続をしていただけるように、町村会等を
通じて県に要望しているところでございます。

○議長 佐藤勇二 永井正之君

○3番 永井正之 この市町村が実施する事業ということで、道路沿線の森林を伐

採することはとてもよいことでした。しかしながら、今は山間地では住宅や畑のそばまでもう山林が迫ってきているんです。伐採するにはやっぱり個人折衝では大変なことなので、こういう事業を使った中で進めてもらえばいいかなと思います。

時間が大分あまっているようですが、これで質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 引き続き、一般質問を行います。佐藤博君
(佐藤博議員 一般質問席へ)

○6番 佐藤博 6番議員、佐藤博です。

議長のお許しをいただきましたので、質問をさせていただきます。

昨年12月から、原町長就任3カ月が経過いたしました。公約の実現に向けての構想がまとまりつつある時期かと思います。しっかりとした計画を示していただきたいと、こういう形で質問を進めます。

まず1点目。

町内中心地活性化、町なか活性化について伺います。

観光情報発信拠点の設置と述べておられるようでありますが、具体的な構想、計画を示していただきたい。よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 お答えいたします。

下仁田もかつて養蚕、こんにやく産業、また、林産業で賑わいを町なかが見せていた時期もありました。時代が変わったとはいえ、なかなか今、静かになってきております。そんな中で、今、道の駅の観光協会、ここでいろいろ下仁田への誘客と、そういう形で進めていただいております。

そんな中、今、町へ来てどこへどうするか、そういう部分があります。そんな中で、今私がこの町なか活性化のことを考えたのが、下仁田駅周辺には赤レンガ倉庫など昔からの歴史的なものがある。そしてまた、下仁田駅自体も関東の駅百選にも選ばれていると。そういったことで、駅の周辺、あの辺に何か観光情報あるいは下仁田の歴史、また、荒船風穴情報、ジオパーク情報のガイダンス施設をつくりたいと。町へ来られた方の受け皿という気持ちで考えております。そういう形のものをづくり、また、人の流れを町なかへ呼び込みたいと、そういうことであります。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 ちょっと具体性が乏しい回答でございました。

下仁田町歴史関連の知的集合施設とはどんなものなのか、具体的にお示しをいただきたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 具体的というよりは、要するにガイダンス施設と情報観光センター的なものということです。その中に、情報として荒船風穴の情報、またジオパークの情報、それと下仁田の歴史、そういったもろもろのものをその中にある程度展示していくと、そういうことです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 荒船風穴、ジオパーク、これを統合してということで、過日所信表明にもありました。また、12月議会では、岩崎議員に質問もされておりました。その後、1月20日付の群馬建設新聞にも掲載がされておりましたけれども、2つの施設を統合してジオパークの再認定になりはしないかという、こういうことを指摘もされているわけであります。可能性、実現性についてお伺いできますでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 可能性、実現性というよりは、ジオパークはちょっと一部、あそここの場所がありますので、導入的な情報かなとは思っておりますけれども、可能性、実現性ということについてということになりますと、もちろんこれから、これは検討に入るということでございます。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 可能ならば、図書館機能を有した複合施設として利便性を向上させたいという、こういうことも述べられております。図書館構想もありませんか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 可能ならばということで、可能でなければできないと思います。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 可能でございましょうか、どうでしょうか。可能としてこう述べられているのではないかというふうに私は想像するのでありますけれども、どのぐらいの可能性があるのか、そういう計画を持って進めたいのか、進むのか、そこらへんをはっきりとお示しをいただきたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 可能性のことですから、それははっきりは言えません。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 可能であるならばやりたいと、できるならばやりたいということ

でございましょうが、こういう言われ方をしますと、聞いた方はそれに期待をする方もいらっしゃる。また、そんなことを言ってもというふうに思われる方もいらっしゃる。もっとやりたいことがあるならばはっきりと、やれることははっきりと、しっかりと検討しながら発言をしていただきたい。

この点についていかがでしょう。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それは考え方の問題だと思います。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 なるだけ早い時期にしっかりとした考えを示していただきたいことを、ここでお願いだけしておきます。

昭和レトロだと言われているが、整備されているわけではない。もっとレトロ化を進めなければ、新たなアピールポイントになる。こうも述べられているようでありますが、どのような方法でレトロ化をしていこうとするのか。この辺のお考えがありましたら、整備構想をお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今の町なかを見れば、かなりレトロな町と言えるんですけれども、できることでしたら、もちろんこれも財政の問題なんですけれども、少し建物を、民家というか、そういう建物を直す。古くなっているものがあれば、余り現代の建材を使わないで何か応援してやれて、木材を使ってレトロ的に直してもらえればいいかなと、そういうような形の中での全体的に町なかの景色を少しずつでもレトロにしていけたらいいのではないかなという考えであります。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 その考えについて、さらに進めるならば進められるような構想、そして体勢対応をしていただきたいというふうに思いますが、いかがでしょう。もう一回だけ。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これは町なかへ、町の中心地活性化のことから来たお客さんをどうするか。また、来たお客が町なかを歩いてどう感じるかという派生的なこれは考えであります、私の。今はそういう状況です。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 これ以上は堂々巡りになると思いますので、先に進みます。

昨日の新聞に、荒船風穴への来場者が昨年が1万3,000人ほどという発表がありました。前年比31%の減だそうです。ブームの失速が報道され

ました。現状、土曜日、日曜日、祝日に対する交通規制がかかっています。
こうしたものを再検討するお考えはございませんでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ちょっと質問の趣旨が違ってきていますが。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 私が申し上げたいのは、先ほどのレトロ化にしても、予算、資金をかけないで来たがために、現状レトロ化が残っているように私は思えるんです。金をかけないからして、昔のままだがそのまま残っている。このようにも感じながらいます。これをいかに生かすかというのは一つのまた知恵の必要なところだと思いますが、今、町長が言われたようなことを町が応援してやっていくとなると、またここに財源が伴うという形になります。

来場者、町外からのお客さん対応ということ、今先ほど述べられたものですから、であるならば、費用をかけなくてももう少しスムーズに荒船風穴の見学ができるような、こんな形をとっていただきたいとするところで、土曜日、日曜日、祝日、交通規制がかかっちゃっているものを一方通行でも神津牧場のほうに流していただくような、こんな手段、方法、対応をとっていただければかなというふうに思いながらの質問でございます。いかがでしょう。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 さっきの町内来場者というのは下仁田の町です。下仁田全体ではなくて。町なかの話ですよ、来場者というのは。風穴のほうまで話していません。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 町なかの活性化というのは、全体の中に町なかがあるにしても、荒船風穴に行った人に町内でお買い物をしてもらうように割引券まで出ているような状況だったんじゃないかなと思います。荒船風穴に回ってもらった人が町内に降りてもらおうという、こういう手だても今までしてきたわけでしょうが、継続的には町なかの活性化につながる。せっかく荒船風穴が世界遺産になっていながら、今は町なかのレトロのことよりも、荒船風穴のほうに世に広く出されているのではないかなと、そこに来るお客さんへの便宜を図りながら、その人を町なかへ運んでくるという、こういう思いでの質問なのでありますけれども、関係なければ結構です。

日本ジオパークが再認定になっている。イエローカードが示されていると思います。

平成27年12月14日付の会議録、審査結果報告書あるいはアンケート等をごらんになっておりますかどうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 話は聞いておりますが、今、今度ジオパークですか。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 町なか活性化です。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これ、ちょっと出発点が違った感じがして、ちょっと申しわけないんですけども、町なか活性化って私は言っているのは、旧下仁田町、いわゆる。町なかから出発して、だから駅の前の話にこだわっているわけなんです。全体の町なか、下仁田全体の活性化、もちろん活性化は考えていますけれども、今その趣旨がちょっと違っているんじゃないかなと、そういうことで今話がまざっている、そういうことです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 原町長さんの言われていることは、駅周辺のことのみの町なか活性化なのでございましょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 この私の目標の中にあつた最初のものは、まずはそこにあります。あとのほかの3項目を含めた中で全体の町の活性化と、そういうことであります。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 であるならば、全体の中の町なかでしょうから、先ほどの質問にもお答えをいただけるべき。また、この日本ジオパークの再認定、これが取り消されるような形になると、ジオパークの宣伝PRができなくなってしまうと私は思うんです。したがってイコールであり、一緒であり、全体というよりも町なか、中心部に影響が出ることだというふうに思うのでありますが、お答えをいただけますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ジオパークももちろん、全体を含めればその話になれば、ジオパークも含まれるでしょうから、そこで私も拒否するわけにもいかないですから。

ジオパークに対しては、私も議員時代にはちょっとなかなか、応援団にも入りましたけれども、ちょっと遠かったかなと思っています。またここへ来て、非常にまた再認定に関して難しい状況になっておると。がしかし、とも

かく一つの大きな下仁田町の要素でありますから、それに関しては今、町長になって初会議がことしになってですけれども、そういった中でいろんな方策も考えております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 日本ジオパークの再認定にイエローカードが示されている。先ほどの質問は12月17日の会議録、審査結果報告書、アンケートをごらんになっておりますかという質問だったのでありますが、いかがでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 一部見ました。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 対策、いかがでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 教育課長をお願いします。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 お答えいたします。

今、佐藤議員さんから言われた議事録の話と、あと実際にジオパークで受け取ったネットワークからの公文書がございます。それで、ジオパーク推進室といたしましては、平成28年1月に受けた公文書に対してどう対応していくかということで1年間やってまいりました。日本ジオパークネットワーク委員会からの再審査報告書公開版の指摘に対応するための一つとして、ボトムアップ型への組織再編、再編後日本ジオパーク関東大会 in 下仁田の開催運営にも当たってまいりました。

このほか、指摘事項への対応を行うとともに、もう一度原点に立ち返り、ジオパークを通じて小・中・高での下仁田学習の実施や町民の方々への広報活動も行っていきたいというふうに考えております。下仁田ジオパークのすぐれた点を伸ばしていければなというふうに、今考えているところでございます。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 認定にもいろいろございまして、企業で言うならばISO認証取得というものがございます。これは、認証する側と企業側がまずはトップ同士の会談というかテスト、審査を行う、トップの考えがきちんとしていなければ、ISOの工場関係、中身の審査に入らないというぐらい、トップの考えが基本になるのであります。

日本ジオパーク、下仁田町がジオパークの認定を受けましたころには、ま

だ国内にも、そう今のような43という、こういう数が認定されていたわけではなかった。まだスタートに近い状況だったのかなと思いますが、そのころにはまだ、日本ジオパークというPR、宣伝にもなる、しなければという思いがあったのか、比較的認証の取得は容易であったのではないかなと。再認定は厳しいのではないかなというふうに私は思いながらいるところであります。せっかく認証を受けた。さらに、再認定に向けて今努力中であるという発言を課長からいただきました。

町長に伺います。

先ほどの課長の答弁で、万全というふうに思われますか。言い切れますか。お伺いをしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 万全と言ったんですか。

○6番 佐藤博 はい。

○町長 原秀男 万全……

○6番 佐藤博 対策は万全ですかと、再認証……

○議長 佐藤勇二 挙手の上、挙手だよ。そこで言わないで挙手の上お願いします。

○町長 原秀男 万全と言ったんですか。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 課長から発表をいただきました。

対策は万全とお考えですかという質問です。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 万全という言葉はなかなか難しいと思います。気持ちはそう思っていますけれども。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 質問者は万全な対策をしてくださいというお願いをしたいところなんです。先ほど、会議録、審査結果報告書、アンケート、一部見えていますということの答弁をいただきました。一部でなくてしっかり見てくださいよ。ごらんになってくださいよ。そして、課長任せではなくて、一緒になって再認定に向けて努力をしていただきたいですよということのお願いをしておきます。ご答弁いただけますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 一部というのは、要するに一番厳しい部分を見たということです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 しっかり見ていただいて、しっかり対応していただかないと、再

認定にならず認定取り消しにあってしまうのではないですかという心配をしながらいるところなんです。そうした意味から、万全な体制をとっていただきたい。それにはしっかり報告書を読んで、その対策、対応を自ら指揮をとってやっていただきたい。こうに思うところでありまして、お願いをしております。

次に行きます。

基幹産業の後押し、ねぎ、こんにゃく、シイタケ産業の活性化、これを後押しする。どのような後押しをされるのか、後押し方策をお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 まず、ねぎ。これは下仁田ねぎですけれども、ねぎの会が昨年11月にGI、地理的表示保護制度の申請というのを行っております。その後も修正や調整が続いておるそうですが、町として必要な資料、情報提供等の十分な協力をしながら支援、後押しを行っていきたいと思っております。

また、現在道の駅の再整備の中でも、下仁田ねぎの特設販売スペースを充実させ、販売消費拡大を図っていきたいと考えております。

またさらに、新年度以降も下仁田ねぎ祭りを盛大に開催し、特産物である下仁田ねぎの消費宣伝に努め、また、農業者の所得向上並びに活性化を図りたいと考えております。これはねぎです。

また、こんにゃくについては意欲ある農業者が高収益な作物栽培体系への転換の取り組みに必要な機械化を図るため、こんにゃく用農業機械のリース導入に支援を行うことを検討し、これも新年度より実施する考えであります。

また、シイタケに関しましては、従来からある事業であります。県の特産林産物活力アップ事業補助金を活用して、さらに予算額をアップして、シイタケ栽培農家の機械化を推進することにより、効率的な経営を後押ししていきたいと思います。そしてまた、ねぎ、こんにゃく、シイタケですが、すき焼きなどの食のイベント、これらをこの前も高崎で先月も行いましたが、あとはねぎの収穫体験などには皆高い関心を持っている方も多く、観光推進事業によってもまた来町する人をふやし、特産品の購買や消費拡大に後押しになるよう取り組んでいきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 道の駅等を利用しながら、特設の販売スペースをふやすと。これは前年からの継続事業の中での引用だというふうに思います。

基幹産業の後押しは、今3点、3業種、3産業のことを申しいただきましたけれども、特設販売スペースを広げても、現状の高齢化、ねぎにしても

こんにやくにしても、またこんにやくの場合には農家、生産者はほとんど出耕作。こんな状況の中で、生産をふやさなければ、いわんや耕作放棄地、この対策、あるいは人手の不足、生産者の減少、こういったことにも目を向けていかないと、道の駅の販売スペースを広げただけでは済まないのではないかなと。

道の駅の販売スペースを広げたところに、いかに地元産の生産物、農産物、こういったものが展示販売されるかどうかという問題、ここに戻らなければならないのではないかな。スペースを広げて、規模を大きくすれば済むことではない。私は思います。それに見合った基本的な準備が必要である。このことについてはいかがでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今まで、狭いということで広げたということだと思いますが。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 狭いから広げたという、そういう計画は原町長になる前の金井町政の中で道の駅の再整備を進めてきたわけであります。ただ、先ほど原町長が特設販売スペースを広げたと、こういう答弁をいただいたものですから、ただそれだけでは済まないのではないですか。いわゆる生産者の拡充、増員、さらには耕作放棄地のことまでも加味していけないと、売り場スペースが空になって、農作物、地元のものが置いてねえよという、こういうことになるのではないですかと。ちょっと言葉が悪いですが、そんなように思えてならないんですけれども、その点いかがでしょうかということです。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それは、私になってからも道の駅の今の特設スペースの話は相談がありまして、その方向にしたわけです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 話がかみ合わないようですから、先に進みます。

国の推進するCLT工法による森林の活性化、どのような後押しを考えているのか。後押し方策なのか、町長自ら陣頭指揮をとる町営的施設なのか。どういうお考えを持っておるのか、その辺の具体的な方策をお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今、ちょっと質問が非常に広いんですよ。つまり、私が町長自らという立場とか、あとはその施設というものが出てきてしまっている。ちょっと今の返事の仕方がちょっとできないんですけれども。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 国が推進するC L T工法による森林の活性化と、こういう掲示をされております。これを基幹産業として基幹産業の後押しという、こういう題名であったものですから、どういう後押しをどのようにされるのかという質問に戻ります。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 お答えします。

C L Tは、先ほども島崎議員さんの質問にもお答えしたように、現在国の取り組み、またロードマップが進行中であります。そして、C L Tを使って自治体施設や民間施設への建築利用普及拡大と。また、実際に建造物をつくっていくという、今方針段階です。

また、建築基準や耐火基準も徐々に整備されつつあるところです。そういった意味で、現在はともかく、国の動向を見て、また逆に下仁田の足元をしっかりとらせていく方策を考えたほうがいいかなと思っております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 国の動向を見てということでありましたけれども、町長の考え方、方針を私は伺いたくて質問をしておるところであります。基幹産業の後押しとして、C L T工法による森林活性化、どんな後押しをするのかという、原点に対する質問なんですけれども、ご理解いただけませんか。

○議長 佐藤勇二 どうしますか。いいんですか。佐藤博君

○6番 佐藤博 質問の内容がご理解いただけないようであれば、結構でございます。

次に進みます。

活性化の勉強会は全額助成ということで、一昨年からの制度に基づいて、町長時代にこの制度を活用してC L T工法の工場の視察をされておりますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 町長時代と今言いましたか。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 失礼。町長時代ということでなくて、町議時代にC L T工法の工場を視察された経緯がございますかと。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 はい、あります。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 町議時代の公費による視察だと思います。どのような措置をされておるかをお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今、これは私、町長になっての一般質問を受けているんですけども、そのころの話をしたほうがよろしいんでしょうか。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 その頃の話というのはまだこれから伺おうとしているところでありまして、今の質問は町議時代に工場を視察されましたよねという質問なんです。したがって、町議時代でありますから、公費による視察について、どのように処置をされましたかという質問なんです。

○議長 佐藤勇二 町長

(「休憩」の声あり)

○議長 佐藤勇二 暫時休憩します。

休 憩 午後 1時55分

再 開 午後 2時05分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開します。

佐藤議員、もう少し遠回しでなくストレートに質問をお願いしたいと思います。佐藤博君

○6番 佐藤博 視察に行かれたのは、林政研究会ですか、協議会ですか。

(「連絡会議」の声あり)

○6番 佐藤博 政策会議ね。

(「連絡会議」の声あり)

○6番 佐藤博 林政連絡会議。このメンバーとして視察をされたようでありますけれども、申請から報告書まで一環を後ほどいただければありがたい。お願いしておきます。

それで、次に進みますが、よろしいですか。申請から報告書までの一連の書類について、後ほどいただきたい。

○議長 佐藤勇二 どうですか。報告書をいただきたいということでございますけれども、答えはありますか。町長

○町長 原秀男 はい、わかりました。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 C L T工法の視察結果、その結果の感想を、町長、お伺いしたいんですが。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 行った時の話ですか。

○6番 佐藤博 はい、視察の感想。

○町長 原秀男 CLTの話はそれまでいろいろ見たり聞いたり、書物でもいろいろ、写真でも見ていました。

実際に見たら、非常にそのもの自体が画期的なんですけれども、やはり実物を見て、これならすごい強度がでるんじゃないかなと、木材が木材でなくなるような画期的な製品というか方法と感じました。そんな中で、そのぐらい実際の説明を聞いても強度的にはコンクリートにも勝るとも劣らないと、もちろん使い方ですけれども、そういった意味では中高層ビルにも使えるということで、こういうことが国のいろんな方向性、つまりは補助金やら、あるいは国の方針でそういう建物をつくっていくということになれば、これは相当な杉の需要拡大につながる。

またそれが、もちろん単価面の問題もあります。コストの問題もありますけれども、それが拡大していけば、今の下仁田の森林、山、この杉も相当な方向性で林業も活性化できる。それによって、町も元気が出ると、そういう感じを大変受けました。

そしてまた、その工場、大変大きな工場でしたけれども、つくっているのは、そこは集成工場です。もともとの集成工場です。CLT自体が集成材ですから、そういった中でつくっていたのは工場の一部でした。ですから、そう大きな工場でなくても、CLTは生産できると。ということは、本当に大規模でなくてもつくっていけるんだな、製造していけるんだなと、そういったもろもろの、そのものに関しての明るいというか、将来的な展望はすごく感じました。

そういうことです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 この視察を経て、そして目標として掲げたわけでありましょうから、就任から3カ月たって、もうちょっと構想を持って、方針を述べて、示していただけるのかなというふうに期待をしていたところであります。私も過日、石川県の工場見学をさせていただきました。いきなりCLTでなくて、集成材から始まって50年の実績を持つ、会社経歴を持つ工場が、ようやく近年になってからCLT工法を取り入れている。蓄積のもとにCLTに入ったと。どこもそうだというふうに思います。これを新規に、新たにやろうとすることを考えているのならば大変なことだなと。よほど眉毛をしめして、腰を据えて対処、対応していかないとならないのではないかなということだけ申し上げておきます。

次に、町営バスの無料化方策、いつごろから実現できるのかをお伺いした

い。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 高齢者対策として、町営バスの無料化を一つに掲げてきました。しかしながら、これは特別交付税、または県からの補助が歳入として入っております。今すぐ無料化というのは大変厳しいかなとは思っています。ですので、その対策として、例えば高齢者の免許自主返納者を対象にした無料化、また65歳以上の無料化などを、歳入に影響を与えない範囲で可能なことから実施していくことはできないか、現在検討をしているところです。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 バスを利用する方に対しては、無料化に大変期待をしている方がいるようであります。きちんと、しっかりと対処していただきたい。現在バスに乗っている人は自分で運転できない人が多いのではないかな。こういう人は無料化に対して大変期待をしているようであります。それから、利便性アップ構想について、所信表明でも述べられております。どんな利便性を構想、想定しているのかをお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 運行計画の中での、立案ダイヤ改正、また、公共交通会議も考えるとなかなか難しいものがありますが、しかし、やはり、とまってほしい場所とか、いろんなところまでという要望もあります。そういった中で、そういう条件を加味しながら検討していきたいと思っています。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 所信表明の中では、バスルートの中に役場を入れるという、こういう表明をされました。これについての実現、いつごろ可能かどうか、その辺を想定してご答弁いただきたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 いつごろとはまだ言えません。いろんな問題点をこれから検討していくところですから。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 所信表明の中には、高齢者ドライバーの交通事故が取り沙汰されておりますということで、大変高齢者ドライバーへの配慮と思われる発言がありました。タクシー券の拡充は地域を限定したものであります。先進安全車購入補助金、先般の新聞報道の中では、29年から明和町が65歳以上に対して一台に5万円の支給をするという、こういう報道もございました。タクシー券の増発は高齢者免許証の返納にはなり得ないというふうに私は思い

ます。

現在の返納者に対する対応、今、町での対応はどんなのがありましたっけ。
ありましたっけね。これは課長に直接伺いたい。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 神戸哲 現在、高齢者の免許証の返納につきましては、運転経歴証明書交付の手数料の1,000円の補助を行っております。それと、バスの回数券の1,000円分を交付してございます。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 返納されるところといった対応がされるということになるかと思うんですけども、そういったものは余り周知されていない。ぜひ今後において、周知も徹底しながら対応していただけたらばというふうに思います。

さきのお話を申しあげましたように、先進安全車購入補助金、そんなこともひとつ、下仁田町としても取り入れるべく検討はしていただければありがたいなと思いますが、原町長さんにお伺いしてよろしいですか。

聞いて答えられなかったら結構です。次に進みます。

子育て世代対策、保育料の減額しようとする内容、29年度に実施できるのかどうか。また、できないとするならば、いつ対応ができますか。お伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 保育料減額、また給食費減額ということで掲げてあります。今年度は検討したんですが、ちょっとなかなか財政事情が厳しい。また、いろんな問題、いろんなことがありまして、来年度には進めていきたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 来年度ということであります。

今現在28年度ですので、29年度の実施ということによろしいんですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 30年度です。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 子供公園の整備、設置、整備内容、設置構想についてお伺いをしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 子供公園の整備、設置につきましては、総合戦略でも掲げてございますが、子育て世代が求める機能等を踏まえ、既存公園の機能強化を行う

とともに、幅広い世代の方々、利用しやすい公園を整備していきたいと考えております。過去には町が補助金を交付し、地域で遊具等の施設整備を行ったちびっこ広場がありますが、現在利用できるものは20カ所ある中で1カ所しかないという状況にもあります。公園という、こういう公共性、安全性を考慮すれば、こちらの行政の責任として設置、維持していくことが必要かなと、そういう方向で考えております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 子育て世代の求める機能とはどんな機能でございますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 遊具とか、遊び道具ですかね。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 全ての世代で活用できる場の整備とは、どんな内容でございましょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 もう一度言ってください。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 まとまっていないようであれば、次に進みます。

目標とする公約の中での29年度予算への反映は、タクシー券の増発以外に何かございますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほど、島崎議員の質問の中にその答えはあると思いますが。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 そうですか。メモしたんですよ。島崎議員の質問に対する答弁の中で3点ほどございましたけれども、それは町長の公約、目標のものとは違い、前年からの継続事業の内容であると、私はそう判断しておりました。

次です。時間があと10分ですね。

スマホ全戸配付について。

29年度の予算の中には、これにかかわる予算の計上はないと思いますが、時折他町村からの視察団が来庁しております。対応や、内容の検討に対する人件費もただではない。今後の対応について、結論を出すべき時期と思います。原町長の考えをお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 スマートフォンを活用した実証事業につきましては、災害時における緊急情報発信、双方向通信による高齢者世帯の安否確認、住民の健康増

進を目的に青倉地区を対象に実施し、その後の効果、課題等について検証を行ってきております。

事業の実施に当たり、対象とする高齢者を195名として予定していましたが、当初、端末を受け取った方が72名という状況でスタートし、その中で、未使用の方が20名おり、実際に利用した方は52名であったそうです。高齢者の方に参加していただけなかった要因としましては、スマートフォンの操作が高齢者には難しいという先入観もあり、その考えを払拭するだけの周知や準備の期間不足が否めなかったものと考えます。

事業効果であります、安否確認テストにおきましては、双方向通信による対象者の状況把握に一定の効果があることを確認してあります。実証事業に参加いただいた方々のアンケート結果では、災害時に安否確認を双方向でできることは有効であると77%、ふるスマチャンネルの情報発信は役に立つ、これはほとんどの方という前向きな意見もいただいておりますが、実証事業全体のサンプル数としましては不十分な数ではないかとの印象を受けています。

また、課題としましては、システム改修の必要性、通信エリア外に対する方策、導入費用にかかる財源、利用者負担のあり方などなど、まだまだ解決すべきことが確認されています。

以上のことを踏まえて、結論としまして、今回のスマートフォンの全戸配付計画につきましては金井前町長の計画による取り組みでもあり、私といたしましては、現時点では一旦白紙に戻したいと考えております。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 ご丁寧の説明ありがとうございました。

私がお伺いしたかったのは最後の一言。白紙に戻すという、ここだけお伺いできればよかったんです。そんな形でもって終了にしていいただければと思います。よろしく願いをしておきます。

続いて、町史の編さんでございます。

これにつきましては、先ほど島崎議員からも質問がございました。50年分。これ、私も20年から質問をさせていただいて、そのときの答弁では6,000万ほどという試算もされたという状況がございました。中身のことは島崎議員が述べましたので省略いたしますが、この発刊に向けては、中心的、組織的になるのは教育委員会であろうというふうに思います。

そこで、教育長さんにお伺いをしたい。町史編さん、これについては、前教育長からも引き継ぎをされているか。ここでお願いをした経緯がございま

す。されていると思います。お考えを、認識をお伺いしたい。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 ご質問にお答えします。

前教育長からも資料を引き継いでおります。そして私の考えですが、現在の町史を見ますと、歴史的な資料、その添付がないということもありまして、歴史的な評価、それが低いというふうなご指摘もございますので、できれば町史を今後刊行していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 過去の質問の中では、いろんな資料を収集しながら保管してあるという、こういうふうに答弁をいただいているところでもあります。ぜひ、組織をつくって、そして手がけてもらいたい。50年分ですから。スタートしてからもう5年から10年かかるのではないかというふうにも言われている状況でありますから、今始めないともうできないということを言っているのと同じように思います。先ほど、島崎議員の質問に対して、町長さんが委員のめどがたてばという答弁がございました。この委員等に対する組織づくりは教育委員会であろうというふうに思いますので、委員会を立ち上げていただきたい。その思いに対して一言で結構です。ご答弁いただきたい。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 今、佐藤議員さんのほうから私の思いということでもあります。

ぜひ、私のほうとしてもそういう組織を立ち上げて、編さんに取り組んでいきたいなというふうに考えております。ただ、時期的には何年というような約束はできないんですが、できるだけ早く取り組んでまいりたいというふうに考えています。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 できるだけ早く、まず組織を立ち上げていただきたい。教育長さんをお願いを申し上げておきます。そして、原町長さん、先ほどにも申し上げましたけれども、町史編さんには6,000万ほどという試算は9年前、20年の質問でもって答弁を得ています。ぜひ、補正で対応するなり何らかの形でもって予算をつけていただいて、スタートを切っていただきたいとお願いするんですが、いかがでございましょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 検討する方向で考えていきます。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 町長も就任されて、構想は多岐にわたっております。

最後に、1点だけ質問をさせてください。

構想、目標を掲げました。これを実施していこうとするには相当なる財源の確保が必要であろうというふうにも思います。

昨日の厚生病院では、平成29年度には1億円を借りて運転資金で借り入れをしていかないと予算が成り立たなくなるような提案を受けました。大変、財政の厳しい状況の中であります。公約の実現に向けて期待をするところではありますが、これらに向けての財源確保をどんな形でお考えであるかを最後にお伺いをしたい。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 考えはありますが、今は検討ということで答えておきたいと思います。

○議長 佐藤勇二 佐藤博君

○6番 佐藤博 12月も今回も、非常に検討中、考えておりますという、こういう答弁が多い。ぜひまた、機会を持って質問をさせていただきたいというふうに思いますが、しっかりと示しをできるご答弁をいただきたい。このようをお願いを今からしておきたいと思います。

所信表明の中では、議会と行政は両輪であり、その上で安心して町民が乗る、乗車できることが何より大事だと思いますと結ばれました。二輪車は二輪、三輪車はタイヤが3つ、四輪車は4つ、全てが一輪足りなくても車は動かないことをご承知おきいただきながら、しっかりと町政かじ取りを願うことをお願いをして、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 以上で一般質問を終結いたします。

○議長 佐藤勇二 本日の日程は全部終了いたしましたので、これにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

散 会 平成29年3月7日 午後 2時30分